

第2回 仙台国際音楽コンクール

THE 2nd SENDAI INTERNATIONAL MUSIC COMPETITION



拍手するあなたも審査員

コンチェルト

コンクールニュース Vol. 5

2004.6.15

Piano

若き精鋭たちの競演！

ピアノ部門ファイナル出場者決定

6月11日～13日に開催されたセミファイナルの審査の結果、6名の方がファイナルに出場することになりました。ファイナルは17日、18日に開催されます。磨きかけられた演奏にご期待ください。なお、6月19日(土)には、表彰式に続いて1～3位入賞者による入賞者記念ガラコンサートが開催されます。

ファイナル第1日 6月17日(木) 19:00開演

 <p>ミハイル・ナミロフスキー 1981/1/1 (イスラエル)</p> <p>ブラームス ピアノ協奏曲 第1番 ニ短調 op. 15</p>	 <p>ショーン・ケナード 1984/10/3 (アメリカ)</p> <p>チャイコフスキー ピアノ協奏曲 第1番 変ロ短調 op. 23</p>	 <p>エリーザヴェータ・ドミートリエヴァ 1982/5/16 (ロシア)</p> <p>ショパン ピアノ協奏曲 第2番 ヘ短調 op. 21</p>
--	--	--

ファイナル第2日 6月18日(金) 19:00開演

 <p>フロランス・ボワソル 1985/2/10 (フランス)</p> <p>ショパン ピアノ協奏曲 第1番 ホ短調 op. 11</p>	 <p>タン・シャオタン 1979/7/7 (中国)</p> <p>チャイコフスキー ピアノ協奏曲 第1番 変ロ短調 op. 23</p>	 <p>高田 匡隆 1977/12/11 (日本)</p> <p>リスト ピアノ協奏曲 第2番 イ長調 S125</p>
--	---	--

お国の手料理で ホームステイ受け入れ家庭

多賀城市に住む斐末珠(ペー・マルチュウ)さんにヴァイオリン部門出場者ホームステイ受け入れの様子を伺いました。

「3年前の経験を生かして、今回も出場者に活躍してもらいたくホストファミリーの申込みをしました。韓国籍のイ・ジュリアンさんとイ・ソランさんとそのお母様の3人を受け入れました。海外でのコンクールに参加する人たちの一番の心の支えは言葉が通じることと、食事で心と心かと思えます。韓国料理の講師をしている私は、一緒に食事を作りました。そして後片付けも一緒、特別扱いせず自然体で接します。門限も決め、遅い時は必ず電話連絡してもらいます。コンクール終了後、イ・ジュリアンさんのメディアテークでのチャレンジャーズ・ライブ、北仙台小学校訪問コンサートの送迎などの他に、多賀城高校から『遊びににおいで』と言われ、イ・ジュリアンさんとイ・ソランさんと3人で出かけました。100人ほどの生徒の前でハイドン、メンデルスゾーンの名曲を演奏し大喝采を受けました。二人は『もっと練習して3年後はファイナルまで残りたい』と言っていました。心の中で二人の成功を祈っています。これからもクリスマスカードなどを送ったりして交流は続けますが、ホームステイと私的交流は区別していきます」と斐末珠さん。彼女は音楽がとても好きで、コーラスも習っているとのこと。「これからもずっと音楽とホームステイに関わっていきたい」と語ってくれました。





ピアノ部門予選終了後の出場者にインタビュー

＜出場者サポートボランティアの通訳で＞

佐野 隆哉さん（日本）

持てる力を十分アピールできたと思います。音楽は自分を映す鏡だと思っています。自分からピアノを取ってしまったら、何も残らないんじゃないかな？ボランティアの皆さんが温かくて雰囲気も良くて、とても助かりました。国内では恵まれたコンクールだと思いました。（24歳）

チーロ・フォーデレさん（イタリア）

私の一番良い演奏ではなかったです。終わったことなので、仕方がないですが…。演奏するなら好きな作曲家はラフマニノフですね。ストラヴィンスキーも好きです。誰が聴いても、自分の伝えたいことをはっきり伝えることができることがとても大事なことで、それが常に私の目標です。（27歳）

イ・ミヨンさん（韓国）

弦楽五重奏がとても良くて、モーツァルトを楽しみました。ブラームス、ラフマニノフが好きです。仙台の皆さんはとても親切で、素晴らしいピアニストがいっぱい集まっているコンクールだと思いました。音楽は自分の人生です！コンクールでは、韓国人は自分一人なので、時々とても寂しくなります。（21歳）

入江 一雄さん（日本）

演奏を終えてホッとしました。自分としては納得いきませんでしたが無事に終えたということでは満足しています。本格的にピアノを始めたのは小学校4年生です。毎日、学校が終わって、4、5時間練習しています。自分にとってピアノは、ピアノを通して自分の気持ちを人に伝えられるようなかけ橋のようなものですね。（18歳）

ショーン・ケナードさん（アメリカ）

今日の演奏は自分のベストだと思いました。以前はよくロックを聴いていました。X JAPAN が好きでした。準備が良く整っていて、とても素晴らしいコンクールだと思いました。一生音楽をしたいです。（19歳）

ペーテル・トートさん（ハンガリー）

聴衆はとても親切で、コンクールの環境はとてもいいですね。毎日4時間位練習しています。モーツァルト、シューベルト、バルトークが好きです。自分にとって音楽はとても大きな存在、意味のあるものです。（20歳）

エリーザヴェータ・ドミートリエヴァさん（ロシア）

仙台はとてもきれいなところですね。聴衆はとても温かい拍手を送ってくださって、会場の雰囲気は素晴らしいと思いました。自分の演奏に不満はいつも残ります。今回も不満はありますが、好きな音楽家は時と共に変わりますが、特に選ぶならラフマニノフです。ピアノを弾ける人はいっぱいいますし、すごい腕を持っている人もいます。その中で一番になることは難しいことであると思っています。（22歳）

アナスタシア・セイフェジノヴァさん

（ウクライナ／ドイツ）

こんにちは（日本語で）！仙台に来てとても嬉しいです。遠くドイツから飛行機に乗って、また準備にもとても時間がかかって疲れていました。それがたった20分で終わってしまいましたが、ホッとしています。観客のみな様から見るとリラックスしているようですが、とても緊張しました。演奏中リラックスはできません。5歳からピアノを始めました。音楽は人生のすべて。ピアノで音楽への愛情を表します。（23歳）

編集後記 ファイナルに出場される方々おめでとう。予選二日目、出場者にインタビューしました。いろんな国の人と通訳を通してお話でき、しばし新聞記者になったような気分。みなさんの協力に感謝します。（長） / （三）

～ ボランティア 一人ひと役 大きな輪 ～（長内）

発行：仙台国際音楽コンクール広報宣伝サポート 問い合わせ：仙台市市民文化事業団コンクール推進課（仙台国際音楽コンクール事務局）

TEL 022-727-1872

e-mail info@simc.jp

URL <http://www.simc.jp/>